

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 25-003

PDCA	事務事業名	J R半田駅前土地区画整理事業	部課等名	建設部 市街地整備課 中心市街地担当	担当	中村亮介	
					内線等	455	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち					
		節： 第2節 都市基盤の整備					
		基本施策： 1. 市街地整備					
		単位施策： (1) 中心市街地の整備					
	根拠法令等	個別施策： ① J R半田駅前土地区画整理事業の推進					
	根拠法令等	土地区画整理法、知多都市計画事業JR半田駅前土地区画整理事業施行条例					
	対象・目的	J R半田駅前地区において、J R武豊線の高架と幹線道路の整備、土地区画整理事業を一体的に行うことで、東西交通の円滑化、安心・安全な都市基盤の整備や都市機能の集積により、まちなか居住の推進及び賑わいと魅力ある中心市街地の再生につなげる。					
	目的を達成するための手段・活動内容	建物の調査及び地権者との移転交渉を行い建物移転を実施する。また、建物移転に併せて宅地造成及び道路整備等の区画整理工事を実施する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①公共用地取得面積		1,150.2	2,397.1	—	m ²
		②建物移転件数		—	—	9	件
		③					
		事業費		72,662	182,436	356,706	千円
		人件費		22,281	24,026	26,524	千円
		総事業費		94,943	206,462	383,230	千円
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①公共用地取得面積当たり		83	86	—	千円/m ²
		②建物移転件数当たり		—	—	42,581	千円/件
	③						
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①公共用地取得率	実績値	95.0	100.0	—	%
			目標値	90.3	100.0	—	
		②建物移転率	実績値	—	—	11.7	%
目標値			—	—	26.0		
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	C					
		地権者と合意形成を図りながら換地設計を進め、令和2年8月に仮換地指定を行った。仮換地指定後、地権者と移転交渉を行ったが、愛知県の連続立体交差事業で支障となる物件では移転補償の費用負担の調整等もあり、9件の物件移転補償契約の締結に留まり目標値には至らなかった。しかし、この他に移転の承諾を7件得ており、今後も交渉を密に行いながら計画的に建物移転を実施する。また、J R半田駅周辺まちづくり検討委員会及び作業部会を開催し、土地区画整理後のJ R半田駅周辺の公共施設整備等の方針を決定した。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進				
地権者と交渉し建物移転を進めるとともに、宅地造成、道路整備、油庫移設等の区画整理工事を実施する。電線共同溝の整備においては、電気事業者と実施に向けた設計協議を進める。また、駅前に相応しい土地利用及び景観形成を図るため、地権者の合意を得た上で地区計画の指定及び景観形成重点地区の指定を行う。							
令和3年度の目標		成果指標		目標値		単位	
		①建物移転率		50.6		%	